

2017年11月30日～12月1日
全電通会館ホール

衆議院議員選挙の総括等に向けて

1. 解散・総選挙を巡る主な経過

- (1) 安倍政権は、第193通常国会で、森友・加計学園問題、防衛省による日報隠蔽、更には最終盤では数の力を盾に民意やルールを無視した「共謀罪」の採決なども相まって、内閣支持率は低下し、不支持が支持を上回る状況へと変わっていった。
- (2) 野党側は、臨時国会の早期開催を要求したが、安倍首相は開催を拒み続けたあげく、「消費税の使い道変更」や「北朝鮮への圧力対応」等の判断に対して国民に信を問うとして、第194臨時国会冒頭の解散に踏み切り、10月22日投開票の日程で、第48回衆議院議員選挙が行なわれることとなった。
これは、まさに疑惑隠しや野党勢力が混沌としている状況を狙った、安倍首相による「党利党略・自己都合」の大義なき解散・総選挙であった。
- (3) 一方、民進党・前原代表は、低迷している政党支持率や「離党ドミノ」に歯止めがかからず、厳しい選挙結果を想定せざるを得ない中で、「政権交代可能な2大政党制」に向け、自民党に替わる受け皿の結集をめざすとして、公認候補全員の新党「希望の党」への合流を図った。
- (4) しかしながら希望の党は、憲法改正や安全保障に関して異なる考えを持つ候補を排除・峻別するとして、全候補者の受け入れを拒否したことから、民進党・枝野代表代行は、自由、平等、平和を旗印に安倍政権に反対する国民の受け皿となるべく「立憲民主党」を立ち上げた。
- (5) その結果、与党に対峙する勢力が、希望の党、立憲民主党、無所属の3分裂となったことを受け、NTT労組は特定政党との政策協定を結ぶことはせず、候補者との個別政策協定の締結方針を示さざるを得なかった。
- (6) 選挙情勢は、安倍内閣の支持率が低下しているにもかかわらず、野党が分裂したこともあり、反自民の受け皿として十分な役割を果たすことができず、序盤から自民党の優勢が報じられた。立憲民主党は、時間を追うごとに飛躍していった一方で、希望の党は、排除・峻別発言などに端を発し、急速に支持が低下していった。

2. NTT労組、中央協の取り組み

- (1) NTT労組は、第2回企業本部委員長会議において、第48回衆議院議員選挙に組織内・仙台市議会議員である『岡本あき子』（宮城1区）を擁立することを決定した。

- (2) また、民進党候補者の分裂などの事態の急変を受け、安倍政権による5年間の暴走に歯止めをかけることを第一義とし、比例区選挙については、推薦候補が希望の党および立憲民主党となったことから、組織内・準組織内および重点候補の必勝に向け結集を図ることを最大戦略として取り組むことを決定した。
- (3) 中央協は、前2項のNTT労組の決定を踏まえ、現・退一致でこの衆議院選挙を戦うことを決め、全支部協へ事務連絡17—3号を発出し理解・協力を求めた。
- (4) 取り組みは、複雑な状況の中で短期間かつ臨機応変な対応が伴う選挙戦を展開せざるを得なかったが、グループ連絡会と連携を密に対応した。

3. 第48回衆議院議員選挙の結果

- (1) 投票率は、台風21号の影響などもあり、53.68%と、前回は若干上回ったものの戦後2番目に低い水準であった。
- (2) 希望の党は、7議席減の50議席となり、立憲民主党は、40議席増の55議席となり野党第1党となったものの、野党分裂によって与党に対峙する勢力として戦うことができず、両党合わせても105議席(選挙区36、比例区69)に留まった。
- (3) 一方、自民党は改選前と同数の284議席、公明党の5議席減の29議席であり、引き続き定数の3分の2を超えて圧倒的な勢力を確保し、自民党の1強の状況は変わらない。
- (4) 組織内候補『たじま要』および初陣である『岡本あき子』、準組織内候補『山井和則』も激戦の末、小選挙区では当選は果たせなかったものの、比例復活を果たした。あわせて重点候補13人全員の当選も果たした。

4. 第48回衆議院議員選挙に対する受けとめ

- (1) 今次衆議院議員選挙は、安倍政権による5年間の暴走に歯止めをかけることを第一義として取り組んだことからすれば、極めて残念な結果である。その要因の一つに、選挙直前において混乱した状況を作り出し、国民の安倍政権に対する批判の受け皿になりきれなかったことであると認識する。
- (2) 突然の民進党の希望の党への合流は、低迷している支持率や「離党ドミノ」に歯止めがかからない状況をふまえれば、「安倍政権を終わらせる」とした大きな流れであったものと一定理解する。しかし、候補者が公認から排除され、野党が分裂し、自民党を利する結果を招いた前原前「民進党」代表および小池前「希望の党」代表の責任は極めて重いと言わざるを得ない。
- (3) このような中、NTT労組組織内、準組織内および重点候補全員の当選を果たしたことは、極めて限られた期間かつ厳しい選挙情勢の中で、組織の総力を結集し、取り組みを展開した成果と評価したい。全国各地で困難な情勢の中ご

協力をいただいた支部協役員、地区協役員等、会員とその家族に対し、心からの感謝と敬意を表する。

- (4) なお、組織内議員等の所属政党が分裂となったことは、2年後の参議院選挙、統一自治体選挙への対応をはじめ、さまざまな課題を残したものであり、早急に、平和と民主主義を守り、勤労者、生活者、納税者の立場に立った政治勢力の結集に向けた対応が求められる。
- (5) 拡大代表者会議で出された意見等については、N T T労組中央本部に意見提起していく。

5. 民進党分裂選挙で支部協総会等が出された主な意見等

- (1) 小選挙区と比例区の投票が一致しないことへの不満、戸惑い。
- (2) 会員への説明が困難だったこと。
- (3) アピール21会員の減少につながる。
- (4) 何故、立憲民主党支持を鮮明にしないのか。

6. 今後の対応について

- (1) 第48回衆議院議員選挙の総括については、N T T労組の対応や第48回衆議院議員選挙の投票動向調査を踏まえ、来春のブロック会議で論議する。
- (2) 今後の政党との関係についてN T T労組は、政治動向や政党の理念・政策等を見極めるとともに、連合の政治方針をふまえ別途確立することとしている。
また、自治体議員団の所属政党については、当面、地域事情をふまえ組織と十分相談した対応を要請している。なお、今後の自治体選挙においては、連合の推薦等をふまえ対処することとしている。
- (3) N T T労組は、第48回衆議院議員選挙における組合員・退職者の会会員の投票動向調査を12月目途に実施し、分析結果に基づき、今後の現役組合員の政治啓発活動に生かすとともに、2019年7月の「吉川さおり」が立候補する第25回参議院議員選挙等に向けた取り組みにつなげるとしている。

以 上